

第7次羽曳野市総合基本計画・第3期羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略等 策定の方向性

1. 計画策定の趣旨

第6次羽曳野市総合基本計画（以下「現行計画」と言う。）及び第2期羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「現行戦略」と言う。）が、令和7（2025）年度に共に目標年次を迎える。

よって、令和8年度以降の本市のまちづくりを総合的かつ計画的に行うための指針とするため、第7次羽曳野市総合基本計画を策定するとともに、本市の人口動態の現状、地域特性等进行分析し、めざすべき将来の方向と人口の将来展望を提示する人口ビジョンの改訂を行い、人口ビジョンで掲げる目標人口の実現に向け、人口減少を抑制し、将来的に持続発展可能な地域を実現するために、第3期羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定する。

なお、まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みは、複数分野にまたがる取り組みが多く、また総合基本計画に位置付けられる中長期のまちづくりと共通する考え方・方向性を有していることから、総合基本計画の中に位置付けることで、より一貫性のある取り組みとすることが可能となるため、まち・ひと・しごと創生総合戦略を盛り込み、一体的に策定することとする。

2. 計画策定にあたっての基本的な視点

〈1〉地域のポテンシャルを最大限に活かしたまちづくり戦略を展開する計画

本市は、大阪都市圏への良好な交通アクセスを有するとともに、世界文化遺産である「古市古墳群」や日本遺産である「竹内街道」をはじめとする歴史的資源、豊かな自然環境、さらにはブドウ・ワインや食肉等の特産物といった、数多くの魅力的な地域資源がある。

人口減少・少子高齢化が一層進展するなか、安定的な行政運営と持続的発展を図るためには、こうした豊かなまちのポテンシャルを最大限に活用し、本市独自の価値を高める必要がある。そこで、市民がまちに対する誇りと愛着を持ち、さらには人や企業を引きつける魅力あふれる羽曳野を創造する戦略的なまちづくり計画をめざす。

〈2〉市民・事業者・行政の共創による持続可能なまちづくりを推進する計画

都市経営が厳しさを増す中、様々な課題を解決し、持続可能なまちづくりを推進していくためには、行政の力だけでは十分ではない。この難局を乗り切るためには、市民・事業者・行政がそれぞれの強みを活かし、適切な役割分担と相互の連携・協働により、共創によるまちづくりを進めていくことが求められる。

そのため、計画策定にあたっては、様々な立場の市民や各分野の関係者の参画により、まちづくりについて議論を行うとともに、各施策の検討・実行に際しても市民・事業者との共創を重要な手段として位置付け、計画を進行することとする。

〈3〉SDGs とウェルビーイングの実現をめざす計画

国際連合が平成27（2015）年に提唱したSDGs（持続可能な開発目標）は次期計画期間中の令和12（2030）年に最終年を迎えるものの、そこで提唱された「持続可能性」の概念や「パートナーシップ

による目標達成」という手段は、自治体として引き続き重要視すべきものであり、次期計画においてもその目標達成を推進していく。

また、それに加えて、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念であるウェルビーイング（Well-being）についても、近年、重要な価値基準となりつつあり、次期計画においても、まちづくりにおいて市民の暮らしやすさや幸福度等の質的な要素を重視する観点から、その実現を推進することとする。

〈４〉DX・デジタル化推進による暮らしの向上をめざす計画

国が令和４（２０２２）年１２月に策定した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」においては、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」をめざすデジタル田園都市国家構想の実現に向け、デジタル技術の活用により、地域の個性を生かしながら地方の社会課題解決や魅力向上の取り組みを加速化・深化させることが示され、本市の現行戦略もこの考えを勘案して策定している。総合基本計画と総合戦略を一体的に策定する次期計画においても、この考え方を踏襲し、積極的なデジタル技術の活用により、誰もが便利で快適に暮らせる社会をめざすものとする。

３．計画策定に係るポイント

●人口フレームの設定とまちの将来推計

次期総合基本計画等の策定に際しては、新たな人口ビジョンを策定し、分野別計画の基本指標となる人口フレームとして、国立社会保障・人口問題研究所の推計を参考に目標とする今後の人口規模を示す。また、人口動態も含めて、今後のまちの課題を市民と共有していく観点から、総務省が各自治体において作成を推進している「地域の未来予測」の要素も同時に包含し、行政需要や経営資源に関する長期的な将来推計を明らかにすることとする。

●複合的かつ実効性のある KPI の設定

人口ビジョンを踏まえて策定する基本構想においては、従来の人口数に主眼を置いた量的な視点以上に、ウェルビーイングの要素を盛り込むなど、暮らしやすさや市民の幸福度等の質的な視点を一層重視し、人口減少下においても、一人ひとりが日々の生活から幸せを実感し、いつまでも暮らし続けることができる持続可能なまちづくりをめざしていくこととする。

そうした質的な目標の達成に向けては、各分野の施策を限られた指標で進行管理していくことは十分ではないことから、適切なロジックモデルの構築により、複合的かつ実効性のある KPI を設定していく必要がある。

よって、計画の進行状況の可視化を図る観点からも、次期総合基本計画等においては、各分野の個別計画において設定されている指標を参照しつつ、各施策目標において現行計画よりも複数の KPI を設定していくこととする。